

## CISPR シドニー会議 Steering committee (Sept. 18, 20,26, 2007)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1 開会			
2 議事次第の承認	CISPR/S/321A/DA		異議無く承認
3 前回 Stockholm 会議の議事録の確認	CISPR/S/319A/RM	特に問題なし	異議無く承認
4 前回会議の議事録から派生した事項	CISPR/S/319A/RM		殆どの課題は終了. なお審議が必要な事項については今回審議する
5 2月の電話会議から派生した事項			審議が必要な事項については今回審議する
6 IEC/CO の報告 6.1 IEC CO news 6.2 List of CISPR Publ.	CISPR/S(Sydney/Baillif) 32		Dr. Bailif が, CISPR は Strategic Policy Statement の中で, .System Approach に関して言及すべきと指摘. Chair は, この3年間に新規および修正された Publ.が10件, また合本になった Publ. が3件あり, この成果を主導した各 SC chair に謝意を表した.
7 各種課題の進捗状況	7.1 CISPRの作業手順 7.1.a 作業進捗報告 CISPR/S(Sydney-Sec) 25 [copy of CISPR/S(Stockholm/Sec)14]	報告を聞く	各 SC Chair は作業進捗報告を S/INF として定期的に出すようにと依頼された. 広帯域妨害波を検討している H/I JTF に, SC-B 及び ITU-R の参加を要請した. また, SC-H の設置場所測定に関する DTR については, DTR が成立してから JTF を作るようになった.
	7.1.b SC間のJTF CISPR/S(SydneyAndersen/Heirman) 3 and CISPR/S(Sydney/Sec)19		<u>CISPR 内の JTF に関する規定が必要であることが認識された. その結果, 77 との JTF に倣って, JTF の expert member を JTF が直接指名するのではなく, 国内委員会による登録が必要になった. 本件について CISPR/INF を配付する.</u>
	7.2 CISPR会議に必要な設備		CISPR 会議に, file server と Wi-Fi の施設が不可欠になってきた. これがあれば, 会議場で必要文書を直接 down load 出来るので便利である. 大阪会議に, このような施設の準備を要請された.

	7.3 次回のCISPR会議の運営に関して 7.3.a CISPR会議の運営 CISPR/S(Sydney/Australia NC)6		オーストラリアから、総会を毎年開催することが提案され、この3年間は試行することになり、総会に提案する。 また、オーストラリアから、CISPR規格の用語が統一されていないので、editing comm.が必要との提案があった。これについても総会に諮ることになった。
	7.3.b 大阪会議のスケジュール CIS/S/(Sydney Japan NC)10 and CIS/S/(Sydney Sec)10a		Chairが、各SCの要望を聞いて12月までにスケジュール案を作り、電話会議により来年3月には確定することになった。
	7.4 2007総会の準備		Sで話題になったことも、総会に諮る。
	7.5 役員選挙 CISPR/1139, CISPR/1142, CISPR/1143, CISPR/1140, CISPR/1135, CISPR/1138, CISPR/1136,		SC/A, B, D, H, Iの各Chairmenとして、各々1名の候補者が挙がっているため、Sとしても、総会でこれらの候補者を支持する。
	7.6 広報		Chairが、広報活動の一環として、IEC Journalに新規に刊行された規格の内容などを掲載することを提案した。また、ACEC EMC Forumsと同様に、CISPR Forumsの開催も検討すべきと指摘し、今後検討することになった。
	7.7 CISPR Guide s-green 7 (Australian NC)		EMC zoneでCISPR活動を紹介する文章案をオーストラリアが作成したので、これを承認。
8 各SCにおける審議結果の報告	CISPR/S(Sydney/Heirman)29: SC-A chair report CISPR/S(Sydney/Sisolefsky)31: SC-B chair report CISPR/S(Sydney/Andersen)24: SC-D chair report CISPR/S(Sydney/Kampet)26: SC-F chair report CISPR/S(Sydney/)30: SC-H chair report CISPR/S(Sydney/Wright)23: SC-I chair report	報告を聞く	各SC chairが進捗状況を報告。
9 他機関との liaison 9.1 CIGRE など	a) 各機関から活動報告を受ける	a) 報告を聞く	IEC TC 1, IEC TC 77, CEPT, CENELEC, CIGRE, EBU, IARU, ITU-R, ITU-T, ETSIから、最近の活動状況およびCISPRとの協同について報告があった。 (1) 特に、IARUはPLTの許容値に関心を持っており、現在検討されている許容値は、CIS 22の無線保護レベルより18dB緩和されており、これに関して投票を行っている、と指摘した。本件についてはS

			<p>保証を行っている」と指摘した。Dr. Balif も関心を持っているため、総会で話題にすることになった。また、PLT WG にも、これに関する文書を出すことになった。</p> <p>(2) さらに、一部の製造業者は CISPR/I/89/CD(2003)を規格のように扱って、製品のが IEC web site からこの文書を削除することを約束した。</p> <p>(3) さらに、IARU も確認しているが、I/WG でプラズマ装置の 30MHz 以下の妨害波が話題になっている。早急に対策を取るべきではないかと指摘した。これに対して、CISPR として PAS の採用も視野に入れることになった。</p>
9.2 Ecma との連携	CIS/S/320/INF	b) 総会の対応と同じ 我が国としては Ecma を EBU などと同様に構成機関として扱うことに賛成。ただし、CISPR は NC を基本とするため、SC-I に直接参加することに反対する。	我が国から反対を表明したが、ETSI などの工業会系の国際組織が既に CISPR に参加しているとの指摘があった。総会の結論を待つ。
9.3 除名する機関	CISPRの構成機関や協調機関から除名すべき国際機関名を検討する	総会の対応と同じ	この3年間以上、CISPR に対する活動報告や協同作業がない下記の国際機関を構成機関または協調機関から除くことを、総会に諮ることになった。 Eurelectric, UIC, UIE, UITP, URSI, ICAO
10 複数の試験法	<p>CISPR/1144/INF 産業界は alternative test methods の導入を望んでいるが、これは ISO/IEC Directive に反しており、reference method を規定する必要がある。このため、この Directive の 6.3.5.4 項を以下のように修正することを提案する。</p> <p>If, for any reason, more than one test method is to be standardized, either the referee (often called “reference”) method shall be identified in the document <u>or the intended (equal) validity shall be stated.</u>”</p> <p>CISPR/1144/INF, CISPR/S/Sydney(German NC)/5, CISPR/S/Sydney(Kampet/Kohling)/8, CISPR/S/Sydney(Finland NC)/12, CISPR/S/Sydney(Japan NC)/18</p>	総会の対応と同じ	<p>SC-I chair が、本件は既に SC-I で審議しており、12ヶ国が IEC Directive の修正に反対し、5ヶ国が賛成したため、提案は否決された旨の報告があった。</p> <p>S は、このような状況を踏まえて、本件について結論を出すことを延期することになった。</p> <p>また、Chair は、各 SC に対して、製品規格に含まれている alternative methods の有無を調べ、secretary に報告するよう要請した。</p>

	CISPR/S/Sydney(UK NC)/20.		
11 測定の不確かさ	CISPR/A/748/INF Chair が、許容値適合判断の際に U <sub>CISPR</sub> の導入を推奨する	U <sub>CISPR</sub> の導入は、製品委員会の判断によって決まるものなので、我が国としては静観。	Mr. Heirman が左記の SC-A 文書を紹介して、不確かさの問題は全 IEC に共通の問題であるから、77 と CISPR が JTF を作り、measurement and compliance uncertainty に関する guide standard を作成すべきと主張した。基本的には CISPR 16-4-1 を修正するなどして対応することを基本にして、総会に諮ることになった。ただし、TC77 総会での承認も不可欠。
12 TC77 との共同作業	最近の活動状況の報告		
13 CISPR 活動報告	a. 2006 Strategic Policy Statement and SMB report b. Draft 2006 Strategic Policy Statement and SMB report c. ACEC representation and report d. 1906 award nominations e. Details for MCR's	特に異議なし	c 項について 現在、CISPR を代表する ACEC member は任期満了になるため、Mr D Heirman, Mr M Stecher, Mr M Wright and Mr B Gorini を新たに member として選任することになり、各国に賛否を問うことになった。
14 CISPR 運営に関する報告	a. Comments on the ACEC comment on revision of Guide 108: b. Availability of CDVs within 24 months. c. Justifications for late projects with more than four months delay. d. Projects older than 5 years e. Admin Circulars	報告を聞く	
15 今後の会議 2008 Osaka, Japan 2009 Paris, France 2010 Seattle, USA		2008CISPR を 10/20-10/29 に WTC Osaka で開催することを紹介する。 宣伝パンフレットを用意する。	大阪会議の会場等を紹介した。
16 その他	CISPR/S(Sydney/Australian NC)21		オーストラリアから、エアコンが 20kHz 帯の妨害波を出しており、危機感の誤動作を招いていることを指摘した。この問題は SC-F で話題にすることになった。
16.1 インバータ・エアコンの妨害波			
16.2 CISPR 作業班会議			Mr. Heriman が各 SC 毎にバラバラに WG 会議を開催しているため参加者は不便を感じている。したがって、全 SC の chair は WG 会議の期間、場所を Secretary に報告し、カレンダーを作ることになった。
16.3 2009EMC/Kyoto シンポジウム			日本が左記シンポジウムの概要を説明し、CISPR の協賛を得た。
19 閉会			